

# 平成25年度 地域公共交通確保維持に関する自己評価概要（全体）

中部様式  
①

資料2

## 長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置

フィーダー系統

平成24年6月21日NW計画策定

### ①協議会が目指す方向性(Plan)

#### (1)地域の特性

本市は名古屋市の東側に隣接し、人口の流出入の面では名古屋市との結びつきが強くなっている。

そのため、市内の公共交通のリニモと名鉄バスは、東西方向の移動に対応した路線網となっており、N-バスで市内を面的にカバーしている。

#### (2)地域公共交通総合連携計画

1)策定:平成21年7月7日

2)期間:平成21年度下期～平成25年度

3)長久手市の公共交通の将来像

#### 『みんなで支える 人と環境にやさしい公共交通』

- ・市内交通の移動軸としてリニモと路線バスを活かし、N-バスでリニモと路線バスを面的にカバーして移動利便性を高め、それらが一体となった使いやすいネットワークをつくる。
- ・利便性の高い公共交通サービスを、住民・交通事業者・行政が協働で支える。

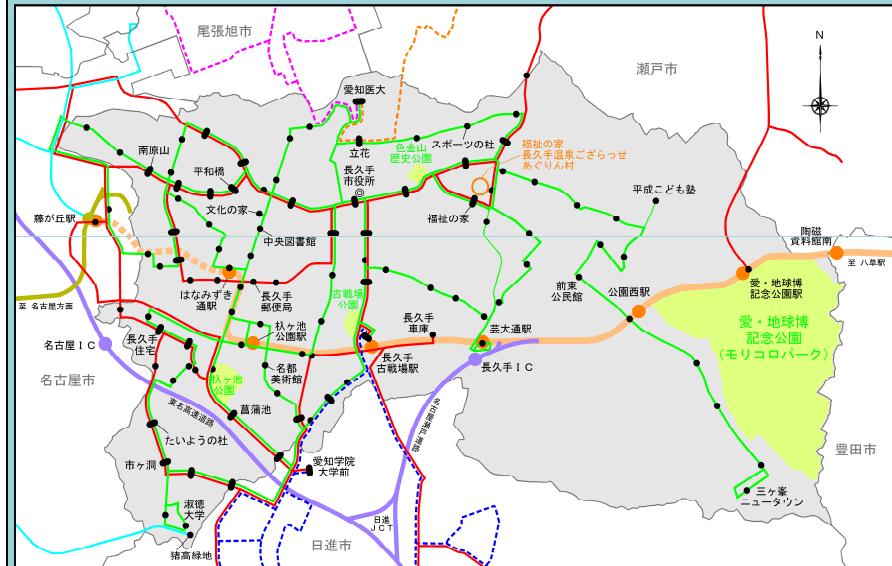
4)連携計画の目標

目標	指標	目標値	現状(平成20年度)
「みんなで公共交通を支えるまち」の実現	公共交通利用者数	現状の10%UP	リニモ:約16,500人/日平均 名鉄バス:約2,240人/日 N-バス:約450人/日平均
「人にやさしい公共交通のまち」の実現	公共交通の推進度	25%未満	「進んでいない」と回答した人の割合27.1%
「環境にやさしい公共交通のまち」の実現	公共交通転換者	調査段階ごとの増加	【公共交通の利用機会】 (平成23年度アンケート調査) 増えた:13.9%、減った:14.4%

#### (3)関連施策

- ・福祉有償運送に関する協議会を立ち上げ、6～7月の事業開始を目指

### 長久手市の公共交通路線網



凡例
長久手市N-バス
日進くるりんばす
尾張旭市あさびー号
瀬戸市コミュニティバス
名鉄バス
名古屋市営バス
名古屋市営地下鉄
リニモ

#### N-バスの路線:7路線

- ・中央循環線(右回り・左回り)
- ・福祉の家線
- ・西部線
- ・南部線(右回り・左回り)
- ・藤が丘線
- ・東部線
- ・三ヶ峯線

## ②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

### 【平成23年度の取り組み】

#### (1)実施事業

- ① Nーバスの実証運行及びNーバスの車両増備による運行本数増加の実証運行
  - ・平成22年度にバス車両1台の増車し、サービス水準を見直し、平成23年4月1日から見直し路線にて運行を開始
- ② 公共交通マップの作成
  - ・従来のタウンガイドマップに公共交通情報を盛り込み新たに作成し、平成24年1月4日からの市制施行に合わせて発行
- ③ 周知・広報活動の強化
  - ・市ホームページの更新、市役所の情報コーナーへの路線バスや隣接市のバス時刻表設置、藤が丘駅やリニモ駅へのNーバスのバス停案内掲示など、幅広く周知活動を実施
- ④ 公共交通利用実態調査
  - ・Nーバスの利用実態調査と住民アンケート調査を行い、取組み効果などを把握

#### (2)協議会の開催

- ・平成23年度は4回の協議会を開催し、実施事業に関する協議を行い、合意形成を図りながら進めた。

#### (3)平成24年度の取り組みに向けた方向性

- 1)住民アンケート調査より、周知・広報活動に改善の余地があることが把握でき、情報発信ツールとして広報紙の有力性が明らかになったので、広報紙を最大限に活かして情報提供量の拡充を図り、更なる利用促進につなげていく。
- 2)Nーバスだけでなく、リニモと名鉄バスも一体で考えた利用促進活動を展開する。
- 3)利用者や住民によるNーバスサポート体制の構築に向けて検討する。

### 【平成24年度の取り組み】

#### (1)実施事業

- ・平成23年度にまとめた平成24年度の取り組みの方向性を受けて、当該年度は以下の事業を実施した。

#### ①周知・広報活動としての「かわら版」の作成

- ・長久手市の公共交通について、市民に周知を行うために市民、利用者目線の広報資料として、かわら版を作成(創刊準備号と創刊号を発行)
  - 「(3)平成24年度の取り組みに向けた方向性」の2)に対応
  - 「(3)平成24年度の取り組みに向けた方向性」の3)についても将来的にサポート体制の1つとして発展させることを目指す。

#### ②利用促進策の検討

- ・今後の長久手市に必要と考えられる短期的な取り組み可能施策について検討
  - 「(3)平成24年度の取り組みに向けた方向性」の1)に対応

#### (2)協議会の開催

- ・平成24年度は3回の協議会を開催し、実施事業に関する協議を行い、合意形成を図りながら進めた。

#### (3)平成24年度の具体的取り組み

- ・周知・広報事業としての「かわら版」の作成については、『創刊準備号』と『創刊号』の2回の発行を行った。
- ・「かわら版」は、利用者、市民目線の公共交通に関する情報誌と位置付け、作成に協力していただく市民協力者を募集し、市民に親しまれやすいように、タイトルも募集して決定した。
- ・利用促進策の検討については情報発信の充実を行い、広報紙へのNーバス特集記事の掲載、リニモと名鉄バスの運行計画変更案内の広報紙への掲載と新聞折り込み、リニモと名鉄バスで連携したイベントなどを行った。
- ・イベント時などに、Nーバスマップ、グッズを積極的に配布した。

### ③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

#### 【連携計画の目標達成度】

- 公共交通利用者数の目標は、リニモとNーバスは前年度から引き続き増加傾向で推移して達成しており、名鉄バスは未達成となっているものの、利用者数は前年度と比べて増加している。市全体の合計利用者数は、目標を達成している。
- 公共交通の推進度は、前年度に続いて未達成となった。

※名鉄バスの利用者数は、交通事業者の実態調査値

目 標		現状:H20実績	目標値	平成23年度実績	平成24年度実績	平成24年度評価
指標1	公共交通利用者数	リニモ	約16,500人/日平均	H20の10%アップ	約18,500人/日平均	約19,100人/日平均 達成(15.8%アップ)
		名鉄バス	2,240人/日	H20の10%アップ	2,111人/日	2,222人/日 未達成(0.8%ダウン)
		Nーバス	約450人/日平均	H20の10%アップ	約530人/日平均	約550人/日平均 達成(22.2%アップ)
		合計	約19,190人/日平均	H20の10%アップ	約21,241人/日平均	約21,872人/日平均 達成(14.0%アップ)
指標2	公共交通の推進度	「進んでいない」との回答割合:28.1%	25%未満	29.5%	33.5%	未達成
指標3	公共交通転換者	—	調査段階ごで增加	公共交通利用機会 増えた:13.9% 減った:14.4%	—	平成25年度に実施

#### 【事業の評価】

- リニモ、Nーバスの利用者数は平成23年度に引き続き増加傾向で推移し、「愛・地球博」以降で過去最高を記録している。また、名鉄バスの利用者数は平成23年度に比べて増加している。この傾向を維持するためにも、昨年度に引き続き、利用促進策として周知・広報活動を展開し、かわら版の発行、広報紙へのNーバス特集記事の掲載、リニモと名鉄バスの運行計画変更案内の新聞折り込みや広報紙への掲載、リニモと名鉄バスで連携したイベント開催、ケーブルテレビでのPRなどに取り組んだ。
- 周知・広報活動として取り組んだ「かわら版」の作成については、最初に発行した『創刊準備号』を、回覧で市民への周知を行ったほか、Nーバス、名鉄バス車内やりニモ駅、主要公共施設、大学などへの配布、及び市ホームページへの掲載を行い、3名の市民協力者の応募があった。その市民協力者とともに作成に取り組み、初めての『創刊号』の発行に至り、4月初めから各種媒体を用いて情報提供を行う。公共交通にして市民とともに取り組むきっかけとなった。

## ④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

### (1)連携計画の見直し

- ・連携計画で掲げたリニモ、名鉄バス、Nーバスの利用者数の目標のうち、名鉄バスでは達成できていない状況にある。
- ・公共交通の推進度の目標も、平成23年度に引き続いて平成24年度も達成できない結果となっている。
- ・連携計画は平成25年度が計画期間の最終年度であり、Nーバス、リニモ、名鉄バスを一体で考える新たな計画を策定し、目標の達成に向けて取り組む必要がある。

【対応】 平成25年度に「地域公共交通調査事業」の補助を活用して、連携計画の見直しを行う。また、名鉄バスが進めている名古屋営業所管内でのバスロケーションシステムの導入に合わせて、Nーバスへの導入に向けて調整を行う。

### (2)周知・広報活動について

- ・今年度取り組んだ「かわら版」作成や広報紙へのNーバス特集記事掲載などの周知・広報活動や、今回の1回の取り組みで評価できるものではないため、継続することが重要である。
- ・これまで、アンケート調査を中心として住民の意見の反映を行ってきたが、「かわら版」作成の取り組みを通じて、直接住民の声を聞くことの必要性を認識した。

【対応】 利用促進に関する取り組みは継続して実施するとともに、連携計画の見直しに伴うアンケート調査の中で周知・広報活動の認知度等を検証し、今後の周知・広報活動のあり方の参考とする。

市民の意見を取り入れるためのワーキンググループを立ち上げて、市民意見を踏まえたNーバスの見直し方針を整理する。

## ⑤アピールポイント(特に工夫した点)

### (1)かわら版の作成など、市民と取り組む周知・広報活動について

- ・初めての取り組みとして、市内の公共交通に関する情報誌として「かわら版」を発行した。
- ・市民、利用者目線の情報誌となるように、実際に公募した市民協力者の方に取材や記事作成の協力をいただき、『創刊号』を発行することができた。また、市民に親しまれるように「かわら版」のタイトルも合わせて募集し、多数の応募があり関心をもってもらうきっかけとなった。
- ・市民や利用者に伝える情報誌としてのみならず、市民や利用者が公共交通を支えるひとつのツールとして定着するよう継続する。
- ・平成25年度の連携計画の見直しを機にワーキンググループを立ち上げて、Nーバスの見直し方針に関する市民意見を取り入れる試みをするとともに、将来的には公共交通に対する市民活動主体への発展も視野に取り組む。

### (2)まちづくりとの連携について

- ・平成24年度は、リニモ、名鉄バス、Nーバスの全ての事業者の利用者数が、平成23年度に比べて増加した。
- ・一方、リニモの長久手古戦場駅や公園西駅の周辺では、商業施設を誘致し面整備を進めている。駅前に立地する商業施設については、公共交通の利用促進に資するように、公共交通利用の来店者に対する特典などのサービス提供について調整を進めており、新規の整備事業を活かして、さらなる公共交通の利用者数の増加に向けて取り組む。
- ・この面整備に伴う都市構造やニーズの変化への対応も考慮して、連携計画の見直しに取り組む。